

八戸市中央卸売市場 青果部 取扱高実績

資料 2

1. 取扱高
 期間：令和3年1月から9月まで（開市日数 188日）
 数量：73,461 t（前年同月比 100.8%）
 金額：16,281,277 千円（前年同月比 99.9%）

2. 月別取扱高

上段：数量(t)と前年比 下段：金額(千円)と前年比

区分	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	合計	前年同月取扱高
野菜	4,241	6,161	6,983	6,108	6,182	7,665	10,052	7,453	9,031				63,876	63,411
	87.7%	102.5%	97.9%	100.9%	107.1%	97.3%	101.1%	99.0%	109.5%	0.0%	0.0%	0.0%	100.7%	
	1,301,078	1,807,849	1,630,571	1,432,592	1,313,334	1,364,071	1,453,874	1,351,242	1,759,591				13,414,202	13,097,073
	132.6%	161.0%	118.9%	101.3%	102.7%	95.4%	64.2%	78.3%	116.7%	0.0%	0.0%	0.0%	102.4%	
果実	979	1,334	1,165	966	820	761	1,100	1,159	1,003				9,287	9,130
	99.0%	108.9%	115.6%	100.3%	122.2%	109.5%	98.7%	79.6%	99.5%	0.0%	0.0%	0.0%	101.7%	
	226,820	307,909	334,110	271,127	262,965	276,908	386,622	381,013	277,381				2,724,855	3,054,680
	83.1%	93.4%	100.7%	77.3%	93.1%	96.0%	92.5%	80.9%	89.6%	0.0%	0.0%	0.0%	89.2%	
その他 (野菜・果実加工品、鳥卵、その他)	38	41	44	27	51	25	27	24	21				298	319
	100.5%	101.9%	101.5%	74.7%	109.2%	78.6%	91.6%	87.4%	82.1%	0.0%	0.0%	0.0%	93.5%	
	17,842	21,584	22,654	11,523	19,773	10,548	13,185	13,671	11,440				142,220	139,885
	92.6%	89.8%	102.5%	99.7%	123.4%	93.1%	109.3%	115.1%	98.4%	0.0%	0.0%	0.0%	101.7%	
合計	5,258	7,536	8,192	7,101	7,053	8,451	11,179	8,636	10,055				73,461	72,859
	89.7%	103.5%	100.1%	100.7%	108.7%	98.2%	100.8%	95.8%	108.3%	0.0%	0.0%	0.0%	100.8%	
	1,545,740	2,137,342	1,987,335	1,715,242	1,596,072	1,651,527	1,853,681	1,745,926	2,048,412				16,281,277	16,291,639
	121.4%	144.8%	115.2%	96.6%	101.2%	95.5%	68.8%	79.0%	112.0%	0.0%	0.0%	0.0%	99.9%	

3. 入荷及び価格の状況

〔野菜〕 1月は、断続的な強い寒波の影響から、全国的に低温と干ばつ傾向が続いたため生育が緩慢となり、野菜全体の入荷量としては昨年を下回った。このため、馬鈴薯や長いも、にんにくは引き合いが強くなり、単価高で推移した。2月は、強い寒気の影響が一部であったものの、全国的に平年より気温が高い傾向となったことから、人参は前進出荷で荷動き良く、価格も安定した。また、ごぼうやにんにく・ねぎは引き合い強く、高値が続いた。3月は、全国的に高温傾向が続き、また適度な降雨もあったことから、白菜・キャベツなどの葉茎菜類を中心に生育順調な品目が多く、入荷量増に伴う単価安で推移した。一方、ごぼうやにんにく・馬鈴薯は前月に引き続き引き合い強く、高値が続いた。4月は、気温上昇に伴う生育順調で潤沢な入荷が続いたことから、野菜全体としては「数量増の単価安」となった一方で、ごぼうとにんにくを中心とする県産特産品は相変わらず引き合いが強く「数量減の単価高」となり、二極化の傾向となった。5月は、気候が良く、多くの品目で生育順調となったことから潤沢な入荷と前進傾向となり、軟調な相場が展開された。6月は、平年よりやや遅い梅雨入りとなったものの、日照時間は多く、平均気温も上がってきたことから生育が順調に進み、根菜類や果菜類では数量・単価とも前年並みとなった。前進傾向であったトマトは、6月下旬には品薄となったため単価高で推移した。7月は、各品目とも猛暑とコロナ禍の影響、それに加え、東京五輪の無観客開催などの影響から、業務・加工分野の荷動きの鈍化は著しく、非常に厳しい販売となった。このような状況にあっても青森県産のにんにくは依然引き合いが強く、昨年よりも1～2割程度の単価高で取引がなされた。8月は、月上旬は好天が続き全国的に各産地とも入荷順調で安値基調が続いたが、月中旬から下旬にかけて、寒気の影響から曇りや雨の日が多くなったことから、日照不足や低温に状況が一変し、きゅうり・なす・トマトなどの果菜類、レタスなどの洋菜類、ほうれん草などの葉物を中心に入荷量が減少し、相場が高騰した。にんにくは、中国産の輸入減と新型コロナウイルスへの免疫効果の期待から、依然として引き合いは強く、高値が続いた。

〔果実〕 1月は、りんごの入荷が始まったが、供給過剰のため前年比3割ほどの単価安でのスタートとなった。この他、いちごやバナナ、輸入果実においては、入荷量は例年並みであったが、コロナ禍のためイベントの中止が相次ぎ、低調な荷動きとなった。2月は、りんごの単価安が続いた一方、みかんは外気温が低かったこともあり荷動きが良く、堅調な販売となった。3月は、前月同様、りんごは単価安、みかんは堅調な販売が続く中、いちごは端境の影響により県内外産ともに入荷量が少ないため活発な荷動きとなり、バナナも気温上昇に伴い、荷動きが徐々に回復してきた。4月は、いちごの旬を迎え最盛期となり入荷量は増えてきたものの、国産果実全体としては、それほど荷動きはみられなかった。5月は、野菜同様、生育順調で前進出荷となったが、いちごにおいては気温上昇に伴う過熟果が一部にみられ、思いの外価格は伸び悩んだ。6月、県内産さくらんぼは、霜害の影響で昨年より1割ほど入荷が少なかったため、昨年よりも高値での取引となった。千葉県産の主力であるすいかも徐々に始まったが、まだまだ外気温に左右される荷動きであった。7月、国産果実は全国各産地とも前進出荷となり、出荷のピークが需要期から外れ早まったため、全体的に厳しい荷動き・単価となった。バナナも国産果実の潤沢な出回りにより厳しい販売が続いた。8月は、前月からの前進出荷が需要ピークと合致し、数量減の単価高で推移したが、月中旬以降の天候の影響で、旬を迎えているメロン・すいかの荷動きが鈍くなった。

八戸市中央卸売市場 花き部 取扱高実績

資料 2

1. 取扱高
 期 間 : 令和3年1月 から 9月まで (開市日数 189日)
 数 量 : 9,403 千本 (前年同月比 100.7%)
 金 額 : 808,779 千円 (前年同月比 105.3%)

2. 月別取扱高

上段:数量(千本・千鉢・千個)と前年比 下段:金額(千円)と前年比

区 分	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	合 計	前年同月取扱高
切 花	571	717	1,572	833	872	752	802	1,359	1,092				8,570	8,531
	85.3%	94.6%	104.1%	112.3%	113.6%	93.4%	92.3%	100.4%	103.4%	0.0%	0.0%	0.0%	100.5%	
	43,382	52,125	136,699	63,088	63,910	60,838	62,096	118,744	97,162				698,044	677,535
鉢 物	7	9	13	18	12	10	8	3	5				85	83
	89.9%	89.6%	107.4%	126.7%	86.5%	105.6%	139.1%	132.1%	68.0%	0.0%	0.0%	0.0%	102.8%	
	2,986	3,987	6,388	9,750	7,068	5,194	5,183	2,409	3,147				46,112	35,951
その他 <small>(枝物、観葉植物、 苗物、植木、加工 品、その他)</small>	28	110	77	137	171	113	43	29	40				748	721
	90.2%	91.1%	121.5%	122.2%	110.3%	99.6%	84.0%	112.0%	81.0%	0.0%	0.0%	0.0%	103.7%	
	2,118	5,182	5,531	15,845	14,287	9,941	4,793	2,872	4,054				64,623	54,389
合 計	606	836	1,662	988	1,055	875	853	1,391	1,137				9,403	9,335
	85.6%	94.1%	104.8%	113.8%	112.7%	94.3%	92.2%	100.6%	102.2%	0.0%	0.0%	0.0%	100.7%	
	48,486	61,294	148,618	88,683	85,265	75,973	72,072	124,025	104,363				808,779	767,875
	70.7%	85.6%	121.5%	146.1%	120.1%	105.7%	91.2%	103.8%	101.0%	0.0%	0.0%	0.0%	105.3%	

3. 入荷及び価格の状況

〔切 花〕 1月は、青果同様、断続的な強い寒波の影響から、全国的に供給量が減少したが、需要が伸び悩んだため単価安で推移した。2月は、バレンタインや桃の節句などイベント用の花が多く取引され、昨春動きがみられなかった分、より活気が感じられた。3月は、イベント用としての需要が伸び、コロナ禍以降初めて引き合いの強い月となった。この状況は全国的なもので、特に関東を中心に品薄、高値傾向となり、出荷産地が東北に以降する初夏までは続く予想された。4月は、コロナ禍のため例年に比べ入荷数量が少ない中、4月中旬以降には輸入品の入荷も減少したため、中値かた高値の単価で推移した。5月は、切り花の原産地がコロナの影響を受け、作付縮小や品種の厳選を行っているため流通本数は多くなく、コロナ禍での様々な制限の影響を受け、動きは鈍かった。一方、カーネーションでは、昨年からの5月が「母の月」とされたため需要が高まり、月初旬は手頃な価格で取引されたが、コロンビア産の輸入品減を国内産で供給した結果、月後半まで高値で推移した。6月は、切花全体として、例年に比べ具業務需要が少なく、流通本数も伸び悩んではいたが、単価は中値で推移し安定していた。7月は、切花全体として、月前半は入荷本数が少なく、単価高めで推移したが、月中旬になると気温が高い日が続き、開花が早まったため、単価安へと推移していった。8月は、東北で生産された切花を中心に、平年並みの販売実績となったが、コロナ禍の影響から荷動きが良いとは言えない状況であった。9月に入り、好天が続いたため、八戸市近郊から菊類・トルコキキョウ・リンドウ・アスターなどが多彩に入荷され、秋彼岸需要もあり荷動きは良かったが、彼岸以降は、落ち着きやや安値へと推移していった。

〔鉢 物〕 1月は、切花同様、断続的な強い寒波の影響から、荷動きが鈍く安値で推移した。2月は、特に胡蝶蘭の引き合いが強く、取扱数量・金額ともに安定した取引となった。3月は、平年並みの荷動きがあり、鉢物全体として、入荷量・単価ともに安定した取引であった。4月は、コロナ禍のため巣ごもり需要が高く、荷動きも良く単価高が続いた。5月は、鉢物においても「母の月」需要を受け高値で推移した。6月から7月にかけて、胡蝶蘭の入荷数量と需要のバランスが安定しており、単価も平均並みでの推移となった。8月は、胡蝶蘭での動きはあったが、気候の影響で品質が安定しなかった。9月は中大輪の胡蝶蘭が数量・価格ともに順調であった。